

---

# 涙目バレンタイン・デイズ

皿尾 りお

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

涙目バレンタイン・デイズ

### 【Nコード】

N5159D

### 【作者名】

皿尾 りお

### 【あらすじ】

女子のみなさん！チャンス到来の時期がやって参りました！あの人を涙目にさせるチャンスです！

「はい！チョコレート！」

今日は、バレンタイン・デイ。

僕は、彼女からのリボン付きの可愛い包装紙を、幸せいっぱいに開けた。

．．．．．

えっ．．．．．??

．．．．．

ええ〜〜．．．．．??

．．．ま、まあ、確かにチョコレートなんだけど．．．

で、でも、なんか、良く近所のスーパーとかで売っているような、おかあさんから貰うようなチョコレート．．．いや、ただのチョコなんですけど．．．

「．．．．．どうかした？」

と、彼女は嬉しそうに僕を見る。

「え!?!?．．．あつ、なんか、嬉しくて．．．」

僕の手には、安っぽい銀色の包み紙に包まれた小さなチョコがいくつも詰まった安っぽいビニール製の箱が握られていた。

「食べて、食べて！」

彼女が嬉しそうに言うから、僕は、

「……ん、ああ……」

と言い、一つ、銀色の包み紙を開けて、食べた。

……普通のチョコだ。……うん、いたって普通のチョコだ。

……あ、ヤバイ……なんだか、泣きそうになってきた。

なんだか、涙目になってきた……もう、泣こうかな……？

なんだか、涙目のせいで、彼女がぼやけて見えるよ。

すると、彼女は、

「おいしい？おいしい？」

と、瞳をランランとして聞くので、僕は、精一杯、取り繕って、

「……ああ、おいしいよ！」

と答えた。すると、彼女はさっきまでとは違ってかわって、幸せそうに、ホントに幸せそうに微笑みながら、

「……バカ！そんなの、おいしいわけないじゃん……こっちがホントのバレンタインチョコレート……手作りだから、あんまりおいしくないかもしれないけど……」

と、手作りの包装紙に包まれた手作りの箱に入った、手作りのチョコレートを恥ずかしそうに僕に僕に手渡した。

僕は一瞬、放心状態だった。

「もうっ！そちのスーパーで買ってきたチョコレートはダミーチョコレート！それは、私が食べるの！あなたは、私が作ったチョコレートを食べるの！」

と彼女に言われるがまま、僕は手作りチョコレートを食べた。

「ま、まずい……」

と言った途端に、幸せな気持ちはどうしようもなく湧き上がってきて、僕は、彼女に背を向けた。

彼女は、多分、声の感じからして、半分にやけながら、

「おいしい？おいしい？」

と聞いてくるので、僕は、

「だから、まずいって！」

と、半分、涙声で答えた。

いつも、こんなばかりだった。

いつも、彼女は僕を涙目にさせた。

どうやら、彼女は僕を涙目にさせる天才だった。

だから、僕が彼女を街で見かけたとき・・・

知らない男と腕を組んで楽しそうに歩いているのを見かけたときも・・・

僕にとっては涙目くらいでちょうど良かった・・・

だって、目で見えるものが多すぎるから。

彼女の微笑みを見ると、僕の目は涙目くらいでちょうどいいから・・・



(後書き)

最近、ホント、ヤバイです。恋なのかな？



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5159d/>

---

涙目バレンタイン・デイズ

2010年10月12日04時42分発行